



# 平成28年度6月補正予算編成のポイント

歳入の根幹である市税収入は、近年、微増傾向にあるものの、平成9年度のピーク時には到底及ばず、一定の税等一般財源を確保するためには、赤字補てん債の発行に頼らざるを得ない財政運営が続いている。

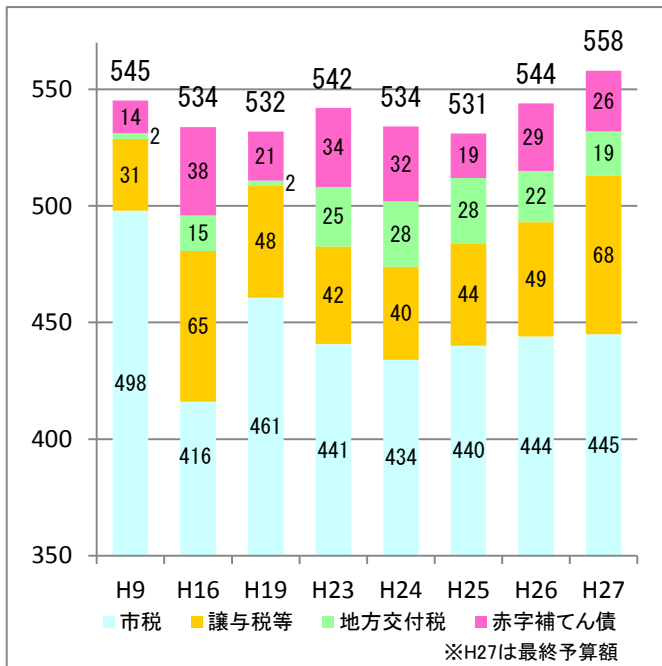
また、扶助費をはじめとする義務的経費の増加のほか、政策事業の実施により経常化する経費の累積から、経常収支比率はここ数年悪化の傾向にある。

なお、一般財源を補う赤字補てん債の発行に加え、主要プロジェクト事業等の着実な推進のため、多額の建設債の発行が続いており、市債残高も増加傾向にある厳しい財政状況となっている。

## 1 厳しい財政状況の再認識

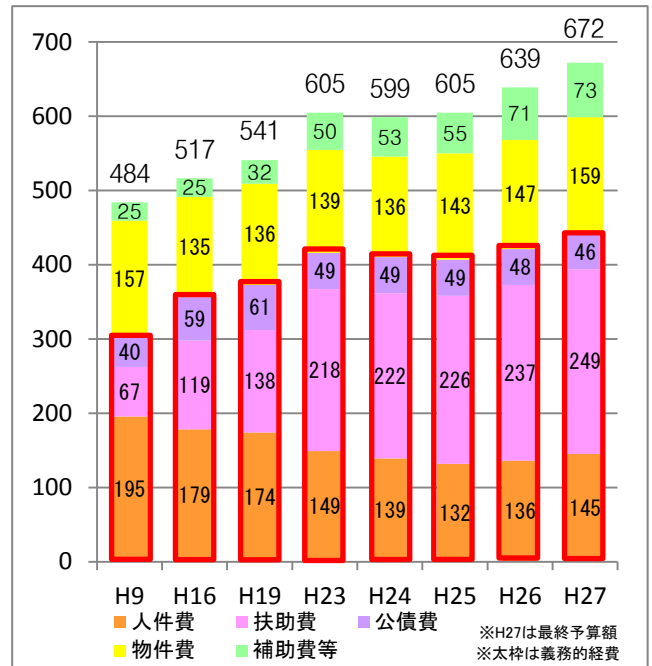
[ 税等一般財源（臨財債含む）の推移 ]

(単位：億円)

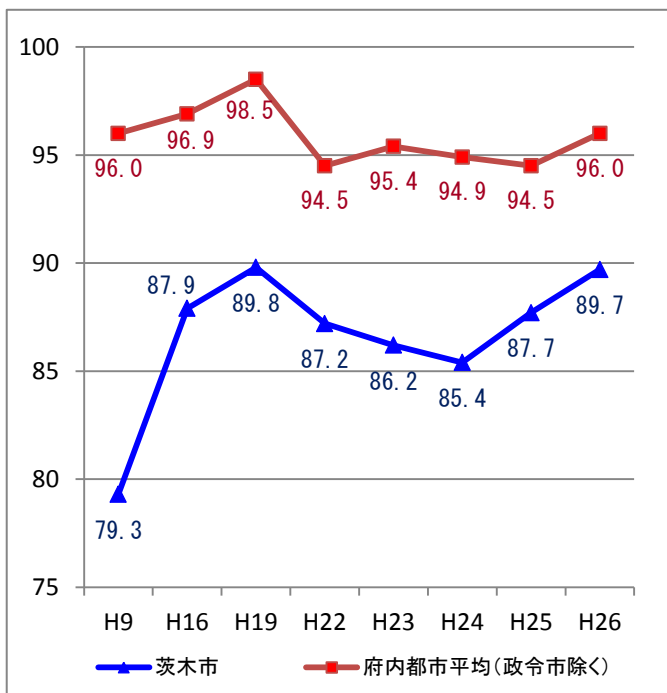


[ 主要な経費の推移 ]

(単位：億円)

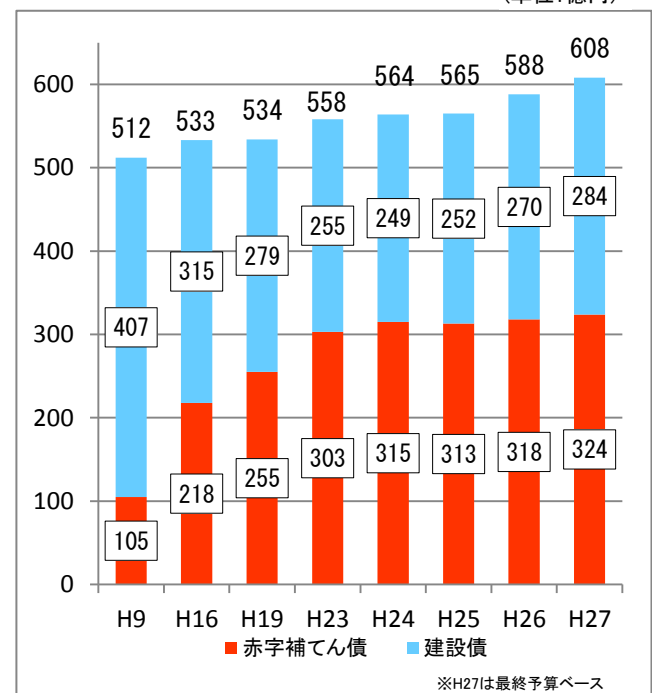


[ 経常収支比率の推移 ]



[ 市債残高の推移 ]

(単位：億円)





## 2 財政計画を踏まえた当初予算編成時の取組み

財政計画における中長期収支見通しでは、経常収支は約30～40億円の黒字で推移することを見込むが、主要プロジェクト事業をはじめとする政策事業や政策事業の実施により経常化する経費の累積等により、何も手立てを講じなければ平成28年度から収支不足に陥る見込みであったため、平成28年度当初予算編成では、将来にわたる健全財政の確保に向けて、財政計画における財政運営の実践に努めた。

### 《H28年度予算編成方針時点[H27.10月時点]》

#### ① 経常収支

(単位:億円)

中長期財政見通し		28年度	29年度	30年度	31年度	32年度	33年度	34年度	35年度	36年度
A 経常事業	①歳入	799	807	807	812	814	814	814	819	818
	(1)市税	444	452	449	456	463	459	465	471	465
	(2)譲与税・交付金	62	65	75	75	75	75	75	75	75
	(3)地方交付税	18	16	19	16	13	18	16	12	18
	(4)市債(臨時財政対策債)	28	24	13	13	11	10	5	8	7
	②歳出	762	771	778	779	780	780	780	783	777
	(1)人件費	140	139	142	141	143	143	143	145	144
	(2)社会福祉経費 ※	337	343	345	346	350	353	354	356	358
	(3)公債費	49	49	50	50	50	51	50	49	43
	A 経常収支 ①-②	37	36	29	33	34	34	34	36	41

※ 扶助費+繰出金(国保・後期・介護)+後期高齢者療養給付費負担金

#### ② 政策事業

(単位:億円)

B 政策事業	③ハード事業	20	20	20	20	20	20	20	20	20
	一般財源	4	4	4	4	4	4	4	4	4
	④ソフト事業	8	8	8	8	8	8	8	8	8
	一般財源	6	6	6	6	6	6	6	6	6
	⑤基金積立	6	6	6	6	6	6	6	4	4
	一般財源	6	6	6	6	6	6	6	4	4
	⑥主要プロジェクト事業	39	52	11	10	11	4	1	16	30
	一般財源	5	11	3	2	3	2	1	3	6
	事業費	73	86	45	44	45	38	35	48	62
	B 一般財源	21	27	19	18	19	18	17	17	20

ハード事業、ソフト事業、基金積立、主要プロジェクト事業に関する事業費を見込む。

公共施設等の老朽化対策費		28年度	29年度	30年度	31年度	32年度	33年度	34年度	35年度	36年度
C 一般財源	事業費	20	20	20	20	20	20	20	20	20
C 一般財源		11	11	11	11	11	11	11	11	11

政策事業により経常化する経費		28年度	29年度	30年度	31年度	32年度	33年度	34年度	35年度	36年度
D 政策事業の経常化分 合計	D <sub>1</sub> ソフト事業の新規・拡充経費	5	7	9	11	13	15	17	19	21
	D <sub>2</sub> 公債費	1	2	5	7	10	12	14	16	18
D 政策事業の経常化分 合計		6	9	14	18	23	27	31	35	39

D<sub>1</sub> 市民サービスの充実を図るために実施するソフト事業の新規・拡充経費が、毎年2億円累積していく。

D<sub>2</sub> ハード事業、公共施設等の老朽化対策費の財源として発行する市債の償還費が、翌年度以降に経常化していく。

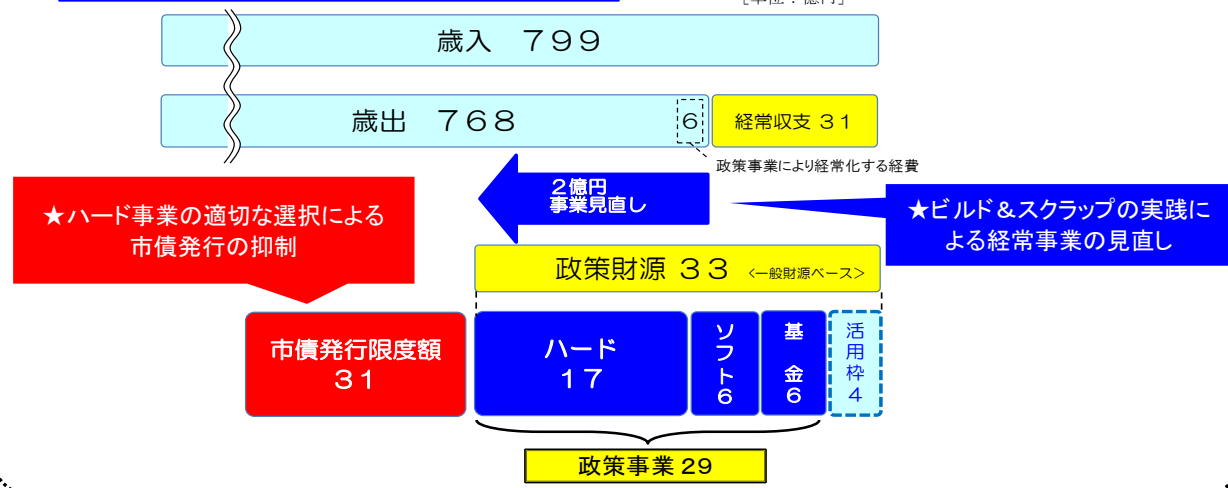
#### 最終収支

(単位:億円)

E 最終収支	A - B - C - D	▲1	▲11	▲15	▲14	▲19	▲22	▲25	▲27	▲29
--------	---------------	----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----

### 《当初予算編成における財源フレーム》

[単位:億円]



### 3 6月補正予算の考え方 ～健全財政に向けた取組みの結果～

財政運営の基本原則の実践や歳入の見込増等により、当初予算編成では市税を約10億円を留保できたことから、6月補正予算の財源として活用していく。

6月補正予算の編成にあたっては、本市の厳しい財政状況を踏まえて、総合計画を基軸に政策6本柱(マニフェスト)を十分に検証しつつ、市民福祉のさらなる向上に向けて、マニフェストの実現と行政課題への対応等を図るものとする。

#### 《H28年度当初(骨格)予算時点[H28.3月時点]》

① 経常収支 (単位:億円)

中長期財政見通し		28年度	29年度	30年度	31年度	32年度	33年度	34年度	35年度	36年度
A 経常事業	①歳入	804	817	816	821	825	824	823	828	827
	(1)市税	445	452	448	455	462	457	462	467	462
	(2)譲与税・交付金	70	75	80	80	80	80	80	80	80
	(3)地方交付税	16	12	14	14	11	16	15	13	17
	(4)市債(臨時財政対策債)	23	18	14	11	9	9	4	6	6
	②歳出	763	780	780	781	784	783	784	787	781
	(1)人件費	145	140	142	142	143	143	144	146	144
	(2)社会福祉経費*	342	347	349	351	353	355	357	359	361
	(3)公債費	49	47	45	45	46	46	45	44	38
	A 経常収支 ①-②	41	37	36	40	41	41	39	41	46

\* 扶助費+繰出金(国保・後期・介護)+後期高齢者療養給付費負担金

② 政策事業 (単位:億円)

B 政策事業	③ハード事業	23	20	20	20	20	20	20	20	20
	一般財源	8	4	4	4	4	4	4	4	4
	④ソフト事業	22	8	8	8	8	8	8	8	8
	一般財源	4	6	6	6	6	6	6	6	6
	⑤基金積立	6	6	6	6	6	6	6	4	4
	一般財源	6	6	6	6	6	6	6	4	4
	⑥主要プロジェクト事業	28	60	16	12	10	7	1	16	30
	一般財源	3	6	2	2	3	2	1	3	6
	事業費	79	94	50	46	44	41	35	48	62
	B 一般財源	21	22	18	18	19	18	17	17	20

ハード事業、ソフト事業、基金積立、主要プロジェクト事業に関する事業費を見込む。

(単位:億円)

C 公共施設等の老朽化対策費	事業費	18	20	20	20	20	20	20	20	20
	C 一般財源	10	11	11	11	11	11	11	11	11

(単位:億円)

D 政策事業により経常化する経費	D <sub>1</sub> ソフト事業の新規・拡充経費	0	2	4	6	8	10	12	14	16
	D <sub>2</sub> 公債費	0	1	2	4	6	9	11	13	15
D 政策事業の経常化分 合計		0	3	6	10	14	19	23	27	31

D<sub>1</sub> 市民サービスの充実を図るために実施するソフト事業の新規・拡充経費が、平成29年度以降2億円ずつ累積していく。

D<sub>2</sub> ハード事業、公共施設等の老朽化対策費の財源として発行する市債の償還費が、翌年度以降に経常化していく。

③ 最終収支 (単位:億円)

E 最終収支 A - B - C - D	10	1	1	1	▲3	▲7	▲12	▲14	▲16
----------------------	----	---	---	---	----	----	-----	-----	-----

